

「給水のためのタイムアウト（給水タイム）」の取り扱いについて

大阪高体連審判委員会

夏季の大会においては高温多湿の環境でバレーボール競技を行うと発汗により水分が失われたり、体温上昇などにより、熱けいれん、熱疲労、熱射病などの「熱中症」に陥ることがあります。

熱中症予防の観点から、選手、審判団の健康管理を維持するために「給水のためのタイムアウト（以下、「給水タイム」とする）」を採用します。

大阪高体連バレーボール専門部では春季大会二次予選と大阪総体地区予選ラウンドで給水タイムを採用します。

【給水タイム（給水のためのタイムアウト）の手順】

1. 各セットにおいて、リードするチームが13点目に達した時、30秒間の給水タイムを自動的に適用する。最終セット（第3セット）についてはチェンジコートをしたあとに適用される。
2. タイムアウトと同様に、副審（または主審）がホイッスルで合図し計時を行い、30秒後に給水タイムの終了をホイッスルで合図をする。
3. 給水タイムは、正規の試合中断の要求（タイムアウト、選手交代）やリベロリプレイスメント等より優先される。上記を行う場合は給水タイム終了後にその手続きを行う。
4. コート内の選手は給水エリア（ベンチとウォームアップエリアの間のフリーゾーン）で給水を行う。
5. 給水タイムは給水だけを目的としたものなので、選手（生徒のマネージャーも含む）だけで実施される。交代選手等が飲料水やタオル等を準備する。
6. ベンチスタッフ（監督・コーチ・マネージャー《教職員の場合》）は選手との会話は認められない。ベンチスタッフはベンチに座って必要に応じて給水を行うことができる。
7. 審判団も必要に応じて給水を行うことができる。
8. タイミングが遅れた場合は、確認できた時点で給水タイムを適用する。

